

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

#### なんてったって米ドル (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室  
カスタマーディーラー 伊藤 一輝

今週のドル円予想レンジ **107.25 ~ 111.75**

### りそなWEEKLY COLUMN

#### 今こそ試される感染力 (P3)

埼玉りそな銀行 資金証券部  
マネージャー 越元 克彦

- 人類の歴史は感染症との戦いの歴史でもある
- 感染しない社会は進歩しない社会

2020/3/23

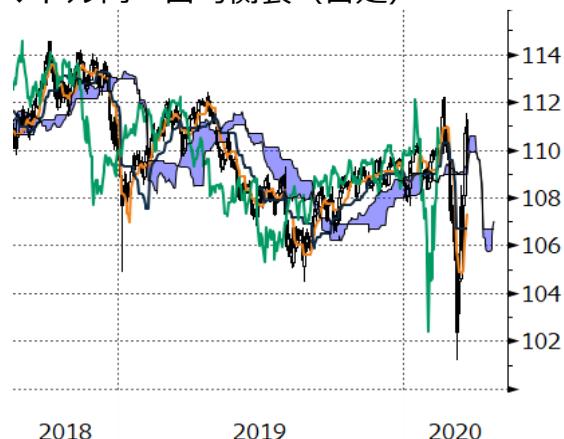
# りそな外為レポート

## なんてったって米ドル

今週のドル円予想レンジ **107.25 ~ 111.75**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表（日足）



### ◆為替相場のすすめ

先週のドル円は一時111円50銭をつけるなど、大幅なドル高となった。債券・株式・原油・金はいずれも売り優勢。手元資金、とりわけ基軸通貨である米ドルを確保する動きが顕著だった。

今週のドル円は、ドル調達ニーズ一服によるドル安方向を予想。3月23日(月)よりFRB・日本銀行など中央銀行6行が協調し、週1回実施だった7日物米ドル資金供給オペの頻度を変更し、毎営業日実施とした(4月末までの措置)。ドル資金不足懸念は時間をかけて徐々に解消されるシナリオを想定する。

話は少し逸れるが、直近の為替市場の激しい値動きは、アイドルの覇権争いに通ずるところがあると思っている。米ドルは、王道路線の歌って踊るアイドル。ドルに次ぐ強い通貨は円やスイスフランで、位置づけはクイズ番組に出演する知性派アイドル、といったところか。ファン(市場参加者)の心をつかみ、次に上昇する通貨は果たして・・・!?  
(数字の「46」に過剰反応してしまうディーラー 伊藤 一輝)

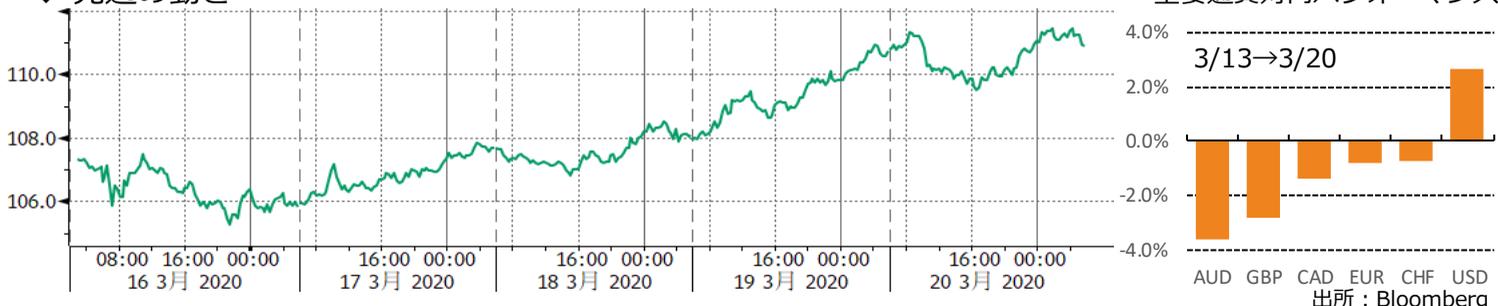
### ◆今週の日程

24日(火) 欧 3月PMI	25日(水) 米 2月耐久財受注
24日(火) 米 2月新築住宅販売	26日(木) 英 BOE金融政策委員会
24日(火) 米 2年国債入札	26日(木) 米 7年国債入札
25日(水) 独 3月IFO景況感指数	26日(木) 米 4Q GDP確報
25日(水) 米 5年国債入札	27日(金) 米 2月個人所得・消費支出

### ◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 3月20日(金) 110.93円 VS 27日(金)

東京							大阪			埼玉						
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	高尾	中里	伊藤	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↑	↓	休	↓	休	↓	↑	↓	↓	↑	↓	休	↑	↑	↑	休	↓

### ◆先週の動き



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/3/23

# りそな WEEKLY COLUMN

## 今こそ試される感染力

- 人類の歴史は感染症との戦いの歴史でもある
- 感染しない社会は進歩しない社会

埼玉りそな銀行 資金証券部  
マネージャー 越元 克彦

### 新型コロナウイルスへの 政策対応の難しさ

新型コロナウイルスのパンデミックに端を発した市場混乱に対して、主要国政府当局は景気対策や金融緩和措置を発動しています。しかしながら、市場の動揺は未だ収まる気配が見えないというのが実情です。その政策対応の難しさは過去のこれまでの経験値が全く参考にならないことが原因です。なぜなら、今回の景気後退は経済的な要因に起因しているわけではなく、感染拡大を防止するために人的移動制限措置をとったことに起因しているからです。FRBのパウエル議長は緊急利下げ後の記者会見で「利下げは国民の健康を守る政策のリリーフ役」といい、景気先行きについても「第2四半期の経済は弱く、第3四半期もウイルス次第」とも語っており、中央銀行の無力感は強まるばかりです。基本的にこの人的移動制限措置が解除されない限り、景気の好転は望めそうもありません。いくら需要を感化するマクロ政策がとられようと、景気悪化の抑制はできたとしても、積極的な景気回復をもたらすことは期待しにくいと考えます。

### こんな時だからこそ、物 事の本質を見る力を

WHOは新型コロナウイルスは人類の健康や命を脅かすPandemic（パンデミック）な状況にあるといますが、実際のところはどうなのでしょう？

最近ニュースでインフォメディック(Infodemic)という耳慣れない単語をよく見聞きします。情報の拡散 (Information+Epidemic)によって日常生活が混乱する結論になっている可能性が高くはないでしょうか？ マスクやトイレットペーパーという、普段いつでもどこでも手に入る日用品が突然なくなる異常事態はウイルスのせいではなく、人間が作り出したものです。SNS等でどこでも早く情報が得られる世の中だからこそ、新型コロナウイルスの感染が広まる状況でも生活できている側面がある一方で、記事を読んでもらう為に見出して危機感を煽るマスコミの影響も多々あると思います。でも、商品棚にマスクがないことは現実です。そんな時にどうすればいいか。それは、情報の真実力の追求でしょう。そういった意味で、この新型コロナウイルス騒ぎはこれまで日常気に留めていなかった本質を読み取る力を高めさせてくれる良い機会かもしれません。

思い出してください。2月の初旬、新型コロナウイルスで中国の経済活動が停滞しているというのに、日本をはじめ世界の株価はまるで対岸の火事のごとく静観（楽観）していました。従って、2月の下旬に起こった世界同時株安はある意味正常な調整でした。



2020/3/23

# りそな WEEKLY COLUMN

振り返ってみれば、元々景気が調整局面の時に株式相場が最高値圏内で推移していることは怪しかった。また、世界中どこも既にカネ余り状態のときに、世界の主要中銀による更なる大規模な金融緩和が本質的な措置であるとも思えません。学校の行事やスポーツイベント、コンサート等が軒並みキャンセルされ、テレワーク指示や自宅待機で日々の生活リズムが乱されている。桜が咲きだした週末なのに散歩の予定を諦めた人も多いと思います。それらを単に迷惑と考えずに、この際何が重要で本質的なのかを見直す時間を与えられたと捉えましょう。（私は部屋の本棚の中の断捨離と模様替えを敢行しました。最近できていなかったことです。）

## 人類の歴史は感染症との戦いの歴史

いろいろと世間は暗い話題が多いですが、必ず新型コロナの影響は収まります。一日に昼と夜は必ずやってきます。寒い季節の後には暖かい季節が必ず訪れます。相場が下落しても必ず相場は上昇します。これこそが本質です。

いろいろなメディアで医師が「新型コロナウイルスを正しく恐れましょう」と発言しています。WHOは同ウイルスによる致死率について、2%程度という推測値を発表しています。感染者の分母は今まさに世界で拡大中なので、実際はもっと低く、1%程度まで下がるという意見もあります。もちろん、世界で100人に1人の確率で人が死亡することを考えると、恐れるに値する感染症であることは確かです。しかしながら、社会に暮らす人類の歴史は感染症との戦いの歴史でもあったわけです。

世界中に感染症は数多く存在しますが、特に世界各国が協力して対策を進めなければならぬ地球規模の問題として「三大感染症」と呼ばれるものがあります。三大感染症とはHIV/エイズ、結核そしてマラリアです。HIV/エイズでは年間77万人ほどが命を失いますが、これは感染者のおよそ2%です。結核の年間死亡者数は約150万人で発病者の15%もの人数にのぼります。そしてマラリアによる年間死亡者数は約40万人で、2億2800万人の発病者に対する致死率は低いものの、死亡者の7割近くが5歳未満の幼児なのだそう。別表のとおり、これら三大感染症による死亡者数はここ10年間で半減しています。実はあまり知られていませんが、外務省によると、日本が議長国を担った2000年7月の沖縄G8サミットでこれらの感染症対策を初めて主要課題として取り上げました。開発途上国の保険・医療向上に日本の経験や知見を役立て対策を進めた結果だとのことで、世界に誇れることだそうです。

# りそな WEEKLY COLUMN

## 感染しない社会は進歩しない社会

三大感染症						
	年間感染/発病者数(百万人)		年間死亡者数(百万人)		致死率(%)	
	2009	2018	2019	2018	2019	2018
HIV/エイズ	33.3	37.9	1.8	0.8	5.4	2.0
結核	9.4	10.0	1.7	1.5	18.1	15.0
マラリア	225.0	228.0	0.8	0.4	0.3	0.2
合計	267.7	275.9	4.28	2.675	1.6	1.0

出所：外務省及びWHO

感染症対策には政治的な意思決定が不可欠となっています。新型コロナウイルスは社会や経済の根幹を脅かしかねない脅威と捉えられています。収束時期の見込みも立たない状況で、世界経済に及ぼす影響が未知数なことから、グローバルに株価の下落を招いています。しかし、よく考えるとこれだけ科学が発達した現代社会において、いつかは特效薬やワクチンができ、時間がかかっても新型コロナウイルスの封じ込めに成功する日が来るはずで、3月15日付日経新聞風見鶏の「「セントルイス」後の未踏へ」によると、スペイン風邪が猛威を振るった1918年に、米中西部ミズーリ州のセントルイスで6週間にわたり学校や映画館を閉鎖し、イベントや集会を禁止したそうです。これらの措置が奏功して感染のピークを遅らせ、医療現場の崩壊を避けることができ、また後の経済回復にも繋がったそうです。日本では3月初めから4月の上旬まで含めるとセントルイス方式に近い5週間程度になります。その頃にはマーケットも落ち着きを取り戻している可能性も大いにあります。リーマンショックの時も、株価が下がってもそれまでの方針通りに買い続けた人が結果的には成功しています。コツコツと投資を諦めずに続けることが今は大切な様に思われます。今回の新型コロナウイルス騒ぎは世界経済に大きな打撃を与えた出来事ではありますが、人はいろいろと影響される（感染する）からこそ社会が成長するとも言えます。言い換えれば、感染しない社会は進歩しない社会、なのかもしれませんね。

